

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	AF	学部・学科	国際教養学部
学 年	3 年	派遣国	イギリス
派遣大学	ドモントフォート大学		
期 間	2024 年 9 月 15 日～ 2025 年 7 月 3 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	◎
滞在費	約 75,000 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	徒歩で、約 5 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	30,000 円	
学用品購入費	0 円	
交通費	0 円	スーパーや学校は徒歩圏内だったので交通費はあまり使いませんでした
交際費	15,000 円	友達とのパブや外食代
その他	30,000 円	旅行代
合計	75,000 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

ロンドンや最寄りの大都市であるバーミンガムに比べると安全ではありますが、日本と比べると夜の治安はあまり良いとは感じません。私の寮の近くには酒屋があり、夜になると人が集まるため、一人で帰るときは少し不安でした。また、夜の川沿いや公園では大麻の取引が行われているという噂をよく耳にしたので、近づかない方が安全だと思います。全体的に大学周辺は街灯が少なく暗いため、夜間は特に注意が必要です。

シティーセンターは日中は比較的安全ですが、夜になると酔っ払った人や少し危険そうに見える人が多く歩いています。特に駅周辺に多いため、旅行帰りや友人との外出で遅くなってしまった際には、Uber などを利用することをおすすめします。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	10 ヶ月間	保険料	103,930 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	Immigration Health Surcharge		
加入期間	10 ヶ月間	保険料	101,751 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町（**レスター, Leicester**）

イングランドの中心部に位置する街で、大都市というわけではありませんが、シティーセンターに行けば生活に必要なものは一通り揃います。私はよく Highcross というショッピングセンターやアジアンマーケットを利用していました。スーパーは、品揃えの良い Tesco と価格が良心的な Lidl を使い分けていました。

レスターはイギリスの中でも移民が多い街として知られており、さまざまな人種の人々が暮らしています。日本人はあまり見かけませんでしたが、日本食レストランやアジアンスーパーでは、日本製の商品も多くあり、値段は少し高めですが手に入れることができます。また、イギリス第2の都市であるバーミンガムへは電車で1時間以内、ロンドンへも2時間かからず行けるため、国内移動にも便利です。イングランドのほぼ中央に位置しているので、国内旅行するには良い場所だと思います。

さらに、レスターのサッカーチームは昨年までプレミアリーグに所属しており、スタジアム周辺はいつも賑わっていました。

【学業編】

1. 大学情報

大学	ドumontフォート大学	所在地	レスター
最寄空港	バーミンガム空港	空港からの距離	1 時間半～2 時間
空港⇄大学	(電車かバス→駅→タクシー) *移動手段		
学生数	27,000	留学生数	2,700
学部	Art, Design, and Humanities (ADH) Health and Life Sciences (H&LS) Business and Law (BAL) Computing, Engineering and Media (CEM) *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	Art, Design, and Humanities (ADH) Politics and International Relations *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① 9月～11月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前				Making Public Policy Lecture	
午後		Making Public Policy Lecture & Workshop		Making Public Policy Workshop	

② 11月～1月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	Political Research in Action Lecture				
午後	Political Research in Action Workshop			Political Research in Action Lecture & Workshop	

③ 1月～3月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
--	-----	-----	-----	-----	-----

午前	Contemporary International Relations Theory Lecture				
午後	Contemporary International Relations Theory Workshop				Contemporary International Relations Theory Lecture & Workshop

④ 3月～6月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前				Global Political Economy Lecture	
午後		Global Political Economy Lecture & Workshop		Global Political Economy Workshop	

3. 履修内容

科目	Making Public Policy		
履修期間	約 1 ヶ月半	単位数	15 ECTS
授業内容／形態	公共政策について。政策の形成、実施、変革などを理解し、分析する。異なる社会的、文化的視点から公共政策の事例を分析。		
成績	C (58%)		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目 A, B, C）	
	単位数	2 単位 x 3	
	担当教員		

科目	Political Research in Action		
履修期間	約 1 ヶ月半	単位数	15 ECTS
授業内容／形態	政治学や政治界における研究方法についての授業。アンケートなど信頼できるソースからの情報収集の仕方からデータをグラフにしたり、分析する方法を学ぶ。		
成績	A (73%)		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目 D, E, F）	
	単位数	2 単位 x 3	
	担当教員		

科目	Contemporary International Relations Theory		
履修期間	約 1 ヶ月半	単位数	15 ECTS
授業内容／形態	リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズム、ポスト構造主義、マルクス主義、フェミニズムといった国際関係の主要理論を体系的に学び、それをを用いて現代の国際問題（戦争、人権、環境、グローバル・ガバナンスなど）を分析する。		
成績	C (53%)		
YCU 振替予定	科目	国際関係論、特講（国際政治学）、特講（国際教養学部留学科目 G）	
	単位数	2 単位 x 3	
	担当教員	西海 洋志	

科目	Global Political Economy		
履修期間	約 1 ヶ月半	単位数	15 ECTS
授業内容／形態	経済と政治をグローバル規模でどのように相互作用するのか仕組みを理解する。主に現代資本主義における不平等や権力について重点を置く。		
成績	B (63%)		
YCU 振替予定	科目	国際経済社会論、特講（国際教養学部留学科目 H）	
	単位数	2 単位 x 2	
	担当教員	和仁 道郎	

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

私の留学生生活は、勉強面でも日常生活の面でも多くの気づきがあり、考えさせられる毎日でした。

まず勉強面では、大学が少人数制で、1 クラスは 20 人程度しかいません。そのため発言する機会が多く、授業についていくには常に集中する必要がありました。さらに、今年はイスラエルのガザ侵攻、韓国の懲戒令、ロシアのウクライナ侵攻、トランプ前大統領の再選など、政治学を学ぶ上で大きな出来事が続いた年でもありました。その中で「日本を代表して意見を述べる」機会も多く、イギリスのニュースだけでなく日本のニュースにも目を向ける必要がありました。ニュースを二つの国の視点から見ることの大切さや、他国から見た日本の姿を知ることができ、非常に有意義な学びの時間になったと感じています。また、教室には純粋なイギリス人が少なく、皆が何らかの他国のルーツを持っていたため、イギリスと他国の視点が融合していることがとても興味深かったです。

日常生活では、初めて一人で海外に住むことに不安もありましたが、スーパーでの買い出しや家事も楽しみながらやることができました。幸運なことにフラットメイトにも恵まれ、少し話したいときにキッチンへ行けば誰かがいて、寂しさを紛らわせることもできました。友人も、日本にいたら出会えなかったであろう国々から来た人たちが多く、自国の料理を持ち寄って文化について語り合う時間はとても楽しかったです。一方でカルチャーショックや人種差別を受けることもあり、楽しいことばかりではありませんでした。特に印象的だったのは、日本が世界でどのように見られているかです。私は日本といえば漫画・アニメやテクノロジーのイメージが強いと思っていましたが、実際には第二次世界大戦のイメージが根強く残っていると感じました。アニメや漫画も人気はありましたが、それを知らない人の方が多く、歴史の話題になることが多かったのを覚えています。複雑な気持ちになることもありましたが、日本から遠く離れた国で、異なる人種や文化を持つ人々が抱くリアルな日本像を知ることができたのは大きな経験でした。そして、実際に自分がマイノリティとして 10 か月間生活する中で、多くの学びを得られたことは今後にとって貴重な経験になると思います。

また、留学生生活は感動の連続でもありました。今回の留学で私は初めてヨーロッパを訪れましたが、映画で憧れていた街並みを実際に目にすることができ、すべてが感動的でした。旅行の機会も多く、教科書で見たような場所や歴史的に有名な地を訪れることができました。日本に帰ってきた今は安心感もありますが、またあの景色を見るためにヨーロッパを訪れたいと強く思っています。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

私は初めてマイノリティとして生活した経験が、現在取り組んでいるゼミ活動に役立つと感じています。私は日本における多文化共生をテーマに研究しており、特に外国にルーツを持つ子どもが日本社会でどのように不自由なく生活していけるのかについて研究したいと思っています。実際に留学先でマイノリティとして学校に通った経験は、当事者の視点から考える力を養うきっかけとなりました。また、留学先の大学ではこれまであまり学んでこなかった政治についても学ぶことができ、その知識を研究にも活かしていきたいと考えています。

キャリアプランについても、今回の留学は大きな転機となりました。海外に出て改めて日本の良さに気づくことが多く、日本の誇る文化や技術を海外に広めていけるような職業に就きたいと強く思うようになりました。これまで香港とアメリカでの生活経験はありましたが、ヨーロッパで生活したのは初めてであり、自分の視野や経験の幅がさらに広がったと感じています。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

10 か月間の留学生活は、長いようで本当にあっという間でした。だからこそ、後悔しないためには「思い立ったらすぐ行動する」「話したい人がいれば積極的に話しかける」「参加したいコミュニティがあれば怖がらずに飛び込む」といった行動力がとても大切だと思います。イギリスにいる人たちは多くが日本から遠く離れた場所から来ているので、友達と過ごす一回一回を大切にすることも重要です。私は帰国のとき、「そういえばあの子とちゃんとお別れできなかったな」と感じるのが何度かありました。

また、自分はメンタルが強いと思っていたのですが、気分が落ち込む日もありました。特に人間関係で悩むことが多かったのですが、そういうときは「10 か月しかないから無理にでも頑張ろう」ではなく、「10 か月しかないから無理をしなくてもいい、日本に帰ったら関係ないものに悩む必要はない」と考えるようにしました。10 か月という限られた期間を言い訳に、自分を勇気づけたり甘えたりすることは、精神面でとても役立ったと思います。

留学生活は楽しむ気持ちがないと、いろいろな挑戦もできないと思います。みなさんが気を張りすぎず、楽しい留学生活を送れることを心から願っています！！